

「咬合と全身」を問題視すると、一つの“解”が見えてきた！

図説 直立動態と心身症状

～人の立つしくみに内在する病因の発見と臨床応用／スウィング理論

臼井五郎(顎口腔臨床センター代表)・著
動的平衡・顎口腔医学研究会・編著
下向 央・監修

医学が進歩したにもかかわらず原因不明の症状が多数存在することは、ヒトの生存、活動の原点である「直立」が考慮されていなかったからではないだろうか。直立＝動的平衡というヒトの動態から咬合を捉え、適正な“頭とアゴの揺れ”ができるよう形態を整えていくことにより、その個体の持つ本来の自然な形に近づけることを可能とし、顎口腔系の安定、心身症状の消失や改善が見られることは必定の現象と言える。「咬合と全身」。ヒトの直立平衡を可能にしている顎口腔機能の失調が全身へ影響することを検証し、咬合・顎位と姿勢の関係、および身体のひねり状態が引き起こす深刻な心身症状を知ることによって歯科の領域と治療の可能性は大きく広がる(“顎口腔医学”)。同時に国家医療資格を有する筋・骨格系治療家との情報交換・連携により、患者の健康改善に多大な福音をもたらす瞠目のテキスト。

顎口腔医学の体系化に向けて

社会構造をも包括した構造医学により生物物理現象は大枠が体系化されましたが、顎口腔系における実践応用の礎としては「全身健康下顎位の臨床的発見」を挙げることができます。これらを基に構築されたスウィング理論と動的平衡咬合医療は、【人の立つしくみに内在する病因の発見と実践】と言えます。学術的には(動的平衡)【顎口腔医学】として、「生物物理現象の一理解のための体系化と臨床応用医術」を打ち立てたと言えるものです。(本文より)



① あたまの重さは約5kg
からだの
てっぺんにあります。



② 下あごの重さは約1kg
あたまから筋肉で
ぶらさがっています。



③ あたまと下あごは、
からだのてっぺんで
ゆらゆらゆれながら
バランスをとっています。



④ ゆれをじゃまする
歯のぶつかりがあると、
あたまのバランスが
乱れます。



⑤ あたまがフラフラしては
あぶなっかしいので、
たおれないようからだを
ひねってバランスをとります。



⑥ 筋肉はこります。顔は
ゆがみます。からだは
ねじれます。こころも
ゆとりがなくなります。

◆主要目次

1. スウィング理論

- 直立機構における下顎骨の役割(慣性力と復元力)
- スウィングキーパー(直立動態の維持構造)
- 基本的な直立動態
- 咀嚼の動態
- 直立姿勢はどのように作られるのか
- 脳神経系の姿勢制御システム
- スウィング理論と形態

2. 直立バランスが悪くなる原因

- 顎口腔系(咬合構造)に起因するもの
- 全身骨格(頸椎骨格)に起因するもの
- 脳の平衡制御破綻に起因するもの

3. 頭部の平衡不全を解消する手段

- 動的平衡咬合医療—歯科インプラント/矯正他
- 歩行運動、代替医療
- 下顎偏位予防
- 安静(臥位)・睡眠の意義

4. 臨床報告

5. 頭部の平衡不全(咬合構造)から波及する病態

- potential energy 統合病因論
- 頸椎(1次バランス)におけるpotential energyから生じる非特異的病態
- 脳の平衡制御破綻(交感神経過剰亢進)における病態
- 身体(2次バランス)におけるpotential energyから生じる特異的病態
- 一般歯科のpotential energy 病因論

6. 「こころ」の動的平衡不全とpotential energy病因論

7. 「生きる」を考える

新刊
7月刊



A4判、350頁
全カラー、図版多数
定価:10,500円(税込み)